

事業所番号	0390200228		
法人名	合同会社 ライフサポート・ゆうゆう		
事業所名	グループホームゆうゆう八木沢		
所在地	〒027-0031 岩手県宮古市八木沢第5地割85番地1		
自己評価作成日	令和6年9月25日	評価結果市町村受理日	令和6年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年10月30日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスが5類に移行した中ではあるがまだまだ制限を設けなければならない状況下にある。若干の緩和により、今までの窓越し面会から、短時間ではあるが実際にお会いしていただき窓越しではない面会やドライブや散歩以外に通い慣れた美容室の利用など外出の機会を増やしている。例年通りの活動は、利用者様や職員の新型コロナウイルス感染などもあり未だできていない。外部との接触があまりない中ではあるが、所内の活動(しりとりやカルタ取りのレクリエーション・体操・季節の飾り物作成等)を充実させ、得意なこと、ご自分でできることをご自分でして頂けるよう支援させていただいている。食器拭き、食器の片付け、洗濯物をたたむなど利用者様方がご自分達の役割りとして進んで手伝って頂いている。利用者様は高齢化しており今までできたことが少しづつできなくなっているのも事実であるができる限りできることはご自分の力を発揮し行ってもらい、どうしてもできないところを職員がお手伝いさせて頂いている。体調の急な変化も増えている。職員は利用者様の日頃の食欲、体調の変化に気を配っている。現在ホームでの看取り介護中の利用者様もおりますが、寝たきりにならないようご本人様の体調に無理のない範囲で車イス乗車しホールで他利用者様の中に入れる様支援させていただいる。また、協力医と訪問看護師と連携し常に情報共有し急変等に備え対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、東日本大震災の被災により現在地に移転したものであり、三陸鉄道八木沢・宮古短大駅にほど近い住宅街の一角に位置している。定期バスの経路であり地域の方々が利用している道路に面し、同法人の訪問介護・居宅介護事業所が、道路向い側にはグループホームがあり、連携をとりやすい。理念は、開設当初に代表社員と管理者が協議しながら作成し、職員の意見を聞き、人型イラストのイメージに入れ込み分かりやすくなっている。看取り介護についての指針を作成し、現在看取り介護を行っており、職員の研修も年に2回実施、また看取り直前、直後の研修も別に計画している。施設にはウッドデッキが設置されており、地域のお祭りや野菜の成長を見るなど、地域の方々との交流に活用されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と職員の目指す統一の介護理念を事務所に掲示し常に目につくようにしている。所内会議で介護理念を再確認している。	理念は、開設当初に代表社員と管理者が協議しながら作成したものである。職員の意見を聞き、理念を人型イラストのイメージに入れ込むことで、職員や利用者・家族、そして地域の人にも分かりやすく、目を引くものとなっている。理念は事務室に掲示しており、日常的にも、また会議等の場でも、職員相互に確認し合いやすいようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス流行に伴い中止となっていた、地域のお祭りを見学し近隣の方との交流を行っている。自治会長はじめ、地域の方も運営推進委員になっている。	新型コロナウイルス感染症が、事業所をはじめ、近隣の施設で発症が確認されたことから、地域の行事には状況を見ながら参加している。お祭りについては、ウッドデッキにて見学している。運営推進委員は、自治会長等4人の地域の方をお願いしている。コロナ禍以降、隣接している『茶屋』での地域の方々とのふれあいは行えていないが、茶屋の活用を検討中である。	地域の高齢者が、事業所前の道路を散歩しており、その道路に面し交流スペース『茶屋』があることから、早期に地域との付き合いの空間として積極的な活用が望まれる。併せて、地域の方々に認知症の理解を深めてもらうきっかけとなることも期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ流行前は「ゆうゆう祭り」を行い、事業所の存在を広めていた。法人全体で茶屋を利用し地域の方の認知症の方への理解ができる方法を検討している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの取組、行事などを報告し、感想、意見を頂いている。ヒヤリハット等は委員の方々の意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、市役所や地域包括支援センターの職員、自治会長、民生委員、消防団長等の委員で構成されている。8月の運営推進会議は感染症の発生に伴い対面開催は見送ったが、10月29日の会議は対面開催で行っている。毎回家族にも参加いただいております。会議ではヒヤリハットについて意見をいただき、サービスの見直しにつなげている例もある。会議録は作成しているが、委員に会議の概要等を伝えるまでには至っていない。	開催後は会議録を作成し、これまでは事業所で保管している。今後はその会議録の要点を、次の開催案内時または会議の場で委員に配布することなどにより、会議で出された意見のその後の対応状況の理解とさらに事業所運営への関心が高まることにつながるものと期待する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員、地域包括の職員の方も出席されている。地域住民の方からの質問、意見に答える等の情報交換もなされている。	市の担当者とは電話で情報提供を受けることが多く、業務に活かしている。利用者についての相談は、包括支援センターに行っており、情報共有に努めながら助言を受けている。生活保護受給者の施設利用についても、こまめに市の担当部署と連絡を取り合い、円滑な入居につなげている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	所内の研修の中で定期的に身体拘束について学んでいる。スピーチロック等の虐待や拘束と思われる言動があった職員にはその場で注意し、その他職員にも所内会議等で注意喚起している。	国の手引きをもとに、身体拘束防止に係る指針について施設独自で作成している。身体拘束適正化委員会は3か月に1回開催し、身体拘束や権利擁護等についての研修の場としている。スピーチロックが見受けられた時には、その都度指摘し、日々のミーティングで職員全体に注意喚起するとともに、言い換えや別の対応を職員で共有している。玄関の施錠は、19時から6時までで行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所内・外の研修で虐待の定義について学び、どんな些細な虐待も見逃さないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所内会議の中で取り上げていく予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は利用者様とご家族様が同席し、不安や疑問点が無いか確認したうえで行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時に要望を聞くほか、運営推進会議に利用者様やご家族様にも参加して頂き、意見や要望を頂戴している。	1対1で対応できる時間、特にも入浴時の利用者との会話を大切にし、困っていること、希望等を聞いている。家族からは、通院の付き添いや面会時に、情報交換を行う中で意見や要望を引き出している。これらの情報については職員間で共有し、必要な対応について検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の所内会議や、年1回の職員と役員の面談の際に職員からの意見や要望を聞き、事業の運営に活かしている。	月に1回行っている所内会議には、代表社員が出席し職員の意見を直接聞いている。年1回の役員との面談は、職員の異動希望や働きやすい環境についての考えを伝える機会となっている。これらの中で要望として出た職員の増員については、職員の募集につながっている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、代表社員を含む役員と職員の面談を行っている。就業環境について個別に話している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修や、職員各々の経験年数やケアの力量に合わせた外部の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	メールや電話等で情報交換やコロナウイルス等の感染症へのマスク等での対策をしながら、新規入居申し込み者の情報提供等は実際にケアマネジャーとお会いし情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「その人の歴史と尊厳、つながりを大切にして寄り添い、見守ります」という介護理念の下、ご本人様の言葉に耳を傾けた、言葉で表現できない利用者様に関しては、心身の状態を観察しご本人様の安心を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用の前に見学に来ることを勧めている。その際や入居時に居室や浴室、トイレ等事業所内を見て頂きながら、不安や要望を聞き、具体的に答えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時にご本人様、ご家族様、前任ケアマネに同席又は情報を頂きカンファレンスを行い、サービス内容を検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	茶碗拭きや洗濯物たたみ等は、利用者様がご自分の役割と思って行ってくれている。行事食の献立等はり利用者様に聞いたり、郷土料理の作り方など教えて頂いている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回、事業所での様子をお伝えする手紙を送っている。通院の付き添いをお願いしたり、利用者様の対応についてもご家族様に相談したりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やご親戚との年賀状や暑中見舞い等の手紙や電話のやり取りを継続できるよう支援している。馴染みの美容室への送迎も行い関係が途切れないよう支援している。また、毎晩娘さんに電話している利用者様には携帯電話の操作をお手伝いしている。	利用者の友人等との手紙のやり取りについて支援している。入居前から通っている美容室へ行きたいという希望を叶えるため、予約調整、送迎の支援を行っている。利用者は美容師さんとの会話内容を職員に喜んで伝えており、入居前の馴染みの人との関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の座席は体調や人間関係を考慮して決めている。時には職員が間に入り、潤滑油の役割をするよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了された利用者様のご家族様が、散歩の途中に寄っていただくことがある。今後も必要に応じたフォローをしていく。入院等でご退居になった利用者様のその後を相談員やケアマネと情報共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望や希望を言える方だけでは無いので、表情や仕草からくみ取るように努めている。	自分で意思表示できる利用者は7人おり、職員は具体的で丁寧な質問を心がけ、利用者の希望を把握するようよう対応している。意思疎通が難しい利用者に対しては、身振り手振りや表情などから汲み取るよう努め、反応を見ながら意向に沿えるよう対応している。利用者が一人での時間や入浴時の、一対一の対応を大切にし、ゆっくりと話を聞き、思いに寄り添えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	仏壇やご家族様の写真等、ご本人様の馴染みの物を置いて頂いている。また利用者様との会話の中から利用者様の過ごしてきた環境や習慣を知り、それらを崩さないように配慮している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日3回のバイタルチェックと排泄や食事のチェック表で身体の調子や排泄のリズムなどを確認している。ケース記録には午前・午後・夜間の過ごし方やその時の言動を記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者がご本人様、ご家族様に確認し介護計画を作成している。毎月の所内会議にて介護計画を職員に確認してもらい、ケース検討の機会を設けている。	介護計画は、入居前の実態調査の情報を確認し、管理者兼ケアマネジャーが本人、家族の意向を確認した上で作成している。モニタリングについては、各居室担当者の意見を確認し、家族の考えを確認した上で、所内会議に諮り作成している。計画は、基本1年間のサイクルであるが、6ヶ月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録を入力するほか、気づいたことはミーティングノートに記入し、職員間の情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族様のその時々々の要望に臨機応変に対応する事を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(新型コロナ流行以前)地域交流会に利用者様・職員が毎月参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	どの利用者様も入居前からのかかりつけ医を継続している。通院時には事業所のバイタルチェック表を持参、主治医に日々の状態を伝えている。体調で気になる時は電話でかかりつけ医に相談している。	利用者は、入居前からのかかりつけ医を継続して受診している。認知症の症状の進行等、変化が見られた場合には、家族や主治医に相談し、専門医の受診を検討している。受診時、職員が付き添った場合には、医師の指示を含め受診結果を家族に報告している。主治医には適宜報告や相談を行い、良好な関係性を保っている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回、訪問看護師が来所する。日々の様子、気になるところがあれば訪看用ファイルに記入し、相談している。夜間や訪問日以外でも急変があれば対応を相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	緊急時でもすぐに利用者様の情報を医療機関に提供できるよう、利用者様情報を作成している。入院時には各病院の医療相談室や相談員の方から詳しい情報をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当事業所では看取りまで行えることを説明している。現在まで看取り中の利用者様がおり、終末期のあり方について職員がご本人様やご家族様と話すことが出来るよう、看取りについての研修を行っている。	看取り介護についての指針を作成し、職員の研修を年に2回実施している。現在看取り介護を行っており、看取り直前、直後の研修を別に計画している。看取り介護の対象利用者の家族とは、状況に応じ状態を報告し、家族の考えを丁寧に聞き取りし、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が新任研修時に「普通救命講習」と「AEDを用いた心肺蘇生」の講習を受けている。その後も2～3年おきに講習を受け、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施。合同の火災訓練時には地域の方にも参加していただいた。また、水害時に備え、系列のGHまでの避難訓練を実施している。	事業所付近は、ハザードマップでは洪水浸水区域に指定されており、火災訓練のほか、地震及び水害を想定した避難訓練を実施している。通常は、道路向かいに建つ系列の施設の2階に避難することとしており、近所の方々に見守りを願っている。夜間想定訓練も実施している。	洪水浸水区域に建つ事業所であり、事業所の横を対象河川が流れている。指定避難所とは少し距離があることから、大きな災害を想定し、今後の災害への備えとしても、指定避難所への所要時間や経路などの情報を確認しておくことを期待する。

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は個浴となっている。排泄や入浴の介助や見守り、居室の訪問時は利用者様に声掛けしてから行っている。	高齢者の尊厳の保持のための研修を行い、利用者の気持ちに寄り添い声かけするよう努めている。スピーチロックにも十分配慮しながら職員の声かけの内容に応じて、その場で注意喚起を行うとともに、事後においてもどのような対応が適切であったかを、職員間で検討した上で、その結果を共有している。日常的な支援の中で、利用者の自尊心の大切さを意識するとともに、プライバシーの確保につながる対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の着替えやその日の衣類などはご本人様にも選んでもらっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間を特に定めず、ご本人様のペースで過ごしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院時や外出時には、衣類をできるだけご本人様の意思で決めていただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等は利用者様にお願いしている。主におしぼりや食器ふきなどを担当していただいている。	献立は、利用者の希望を把握した上で担当の職員が作成し、誕生会等のメニューで活かしている。正月のお煮しめや彼岸だんごなど、季節に応じたものを提供しているほか、畑で採れたキュウリやなすなども、食材として活用している。食器拭きや食後の後片付けを利用者が行っている。現在は、利用者が調理に携わる場面はないが、自分で調理し食べる機会を作っていきたいと考え、方法を検討中である。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況はチェック表を用いて確認している。体調に合わせて柔らかさ、大きさを変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを促している、ご自分でできない利用者様の歯磨きは職員が介助している。毎晩入歯洗浄剤を使用し消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁する前にトイレに行けるように排泄のチェック表を確認し声掛けしている。	現在は、布パン1名、リハパン5名、その他オムツが2名であり、ポータブルトイレの利用はない。排泄チェック表を確認し、パターン等に応じた個別の耳打ち等の声かけや肩たたき等によりさりげない誘導を行っている。日中は、利用者全員がトイレを利用している。失禁時には、利用者のプライバシーに配慮し、トイレや居室内での清拭・着替え等の支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便があるかチェック表で確認し、排便の状態を医師に伝え、便秘薬を処方してもらっている。水分摂取を拒否する方には少しずつ水以外でも飲んで頂いている。訪看来所時に腹部マッサージや浣腸をしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	年末年始、お盆も含め一日から二日おきに入浴していただいている。季節の行事として菖蒲湯やゆず湯に入らせていただいている。	入浴は、週に2回から3回、行っている。1日に3名程度で、利用者と一対一の場面となることから、ゆっくりと入浴し、じっくりと話を聞く機会にしている。入浴を嫌がる時には、無理強いせず、翌日に対応を行う等個々に合わせ支援している。リフトを導入し活用をしている。異性介助を嫌がる利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全居室ベッドを備え、休みたいときに休めるようにしている。夜間何度も起きる利用者様には、温かい飲み物をお出ししたり、不安解消できるよう話を聞いたりしている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をファイルにまとめており、職員がいつでも見られるようにしている。時には薬剤師さんに薬の説明を頂いたりしている。薬に変更があった時などはケース記録に入力し、変化が無いかなど注意して見守っている。また通院時に医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気が良い日はウッドデッキに出て日向ぼっこをしている。枝豆の収穫を皆でしたり、干し柿作り等も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候により散歩やドライブなどを行っている。	宮古港に寄港した客船の見学に行き、利用者は大きな客船に興奮し大変喜んでいた。、さくらつつみ公園まで花見に出かけたり、近くの地藏堂への散歩やお参りをしている。散歩時には近所の方々に声をかけてもらっている。車で出かける際には、懐かしい街並みを楽しんでいる様子が伺える。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお金は(全員分ではないが)事務室で預かっている。利用者様が買いたい物があればその都度職員が買ってきたり職員が付き添って買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望時に電話を掛ける手伝いをしたり、手紙の代筆をしている。携帯電話をお持ちの方には操作をお手伝いさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日2回、温度と湿度を確認し、エアコンを調整している。季節感のある装飾を心掛けている。	利用者は、日中は吹き抜けの食堂兼ホールで過ごしている。大型テレビ2台の前にはソファがあり、その間にテーブルが3か所配置されており、好きな場所で好きなことを行っている。床暖房、エアコン、加湿器が設置されており、室内の温度、湿度を適切に管理している。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを配置、ゆっくり見られるようにしている。又はテーブルで新聞を読んだり、本を読んだりと思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとチェストは事業所で準備した。それ以外はご本人様とご家族様が持ち込んでいる。仏壇や位牌を置いたり、ぬいぐるみやご家族様の写真を飾ったりとそれぞれの利用者様らしい居室になっている。	居室には、ベッド、チェスト、エアコンが設置されている。その他に、利用者の方が持ってきた仏壇、テレビ、棚等が利用者の好みの場所に配置されている。部屋には絵や写真、人形が等が飾られており、過ごしやすい空間となっている。ドアは吊り戸式であり、高齢者が開閉しやすいものとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差が無く、居室の扉も軽い力で開閉できる吊り戸である。トイレや居室の場所が分からなくなる方用に各ドアに「トイレ」や利用者様の名前等を分かりやすく貼りだしている。		